

「文化芸術の振興に関する基本的な方針」について

米屋 尚子（社団法人日本芸能実演家団体協議会）

（ 1 ）芸術の振興（P10）・芸能の振興（P.12）／伝統芸能の継承及び発展（P.11）

課題＜芸術の振興の1点目と2点目に関連して＞

文化庁の委託事業という形式をとり、事業前に契約を結ぶという形式の支援に、限界がある。
行政および芸術団体の事務量増、一方、行政官は増加せず。小さな「官」
事前契約は、創造のプロセスの変更や、人材登用、観客の反応に対応するに必要な柔軟性に欠ける。（現在は運用で対応している）

文化庁の直接事業ではなく、芸術団体の自律性を基本とした補助金の制度にし、
芸術文化支援のための特別法の立法なども視野に入れて、助成制度の再編成が必要。
知財立国、文化創造立国を標榜するなら、科学技術振興に匹敵する創造支援システムを

芸術文化振興基金と、文化庁の支援との、より明確な役割分担が必要なのではないか。
（例えば芸術団体の活動規模に応じて、支援の枠組みを変えるなど）

国の役割に応じて政策目標をより明確にし、芸術分野や芸術団体の特性に応じた支援システムへと再構築にとりくむことが必要。

課題＜芸術の振興の4点めに関連して＞

・新国立劇場は、創造活動の充実を図り、日本の拠点劇場のひとつとして文化芸術の享受者の広がりに積極的に貢献すべき

芸術家等の養成及び確保等（P16）

課題＜2点目と4点目に関して＞

「検討を進める」から「検討を進めるとともに、研修等を充実させる」
とくに舞台技術者の課題
団塊の世代の定年と中堅層の薄さ＝技術の継承の危機
指定管理者制度の導入・委託費や報酬の低下＝研修余力の減少

現職者研修の課題

研修を必要としているのは参入期の若手だけではない
中堅や経験者にも研修は必要
現場の中核にいる人たちが研修に出られるような奨励のシステムを

課題＜3点目＞

現状の海外留学制度、国内研修制度の見直しと改善を … 事前・事後のガイダンスとフォロー

課題＜芸術家等の地位向上＞ … 留意すべき点との関連で

契約条件、仕事環境などの問題点の研究と対策を … 著作権等の保護及び利用（P18）にも関連

c f . 劇場・音楽堂への芸術家やスタッフの配置

芸術団体の特性を考える

1. 芸術団体とは 芸術団体のタイプ . . . 舞台芸術創造団体
. . . 基盤整備団体
(ほかに、いくつかの機能・事業に特化した組織あり)

創造団体 . . . 公演を創造する団体
事業の内容 企画・創造・提供・観客育成・拠点形成

芸術団体の機能とその活動が社会にもたらす価値：

専門性の蓄積・専門的人材の育成、雇用、登用

創造 多様性の確保 = オプション価値

卓越性の追究 = 威光価値

享受者への影響 = 教育価値

享受の機会を広げる、教育的活動

教育価値のひろがり

人のつながり、まちづくり = 地域経済への貢献



国民の文化芸術の享受を保障する

舞台芸術創造の経済構造の観点から

A) 初期投資の大きさ

- ・集団創造で仕込みに投資が必要な場合
- ・専門性の高い個々人が継続的な関係で創造・公演を行っている場合
- ・専門性の高い個々人が、公演のたびに出演して公演を成立させていく場合

B) 市場の大きさ、愛好者、嗜む人々の分布状況

- ・地域差はあるものの、産業としてある程度の規模で各地で公演が行われている分野
- ・公演活動は少ないが、お稽古ごととして広く全国的に参加している人が分布する分野
- ・公演の市場も未形成で、参加者、愛好者も少ない分野

C) 団体の活動規模

- ・専従者が一定数以上複数いて、年間を通じて職能集団として活動し、高機能をもっている
- ・継続的に活動している職能集団だが、季節的に活動がゆるやかな時期がある
- ・公演のつど、人が集まり活動を行っている(関与者が多い場合、少ない場合)

D) 団体の活動歴

- ・草創期
- ・一定の評価を得て活動を拡大しようとしている成長期
- ・相当年数の経験と蓄積を経て活動規模が比較的一定になってから

2. 文化政策と芸術振興の目的との関連で

どのような活動が存在しているのか・・・どのような志向性をもった団体があるのか

そのうちどのような方向性を助長していこうというのか

・・・芸術団体がどのように変わっていくのが望ましいのかという具体的なビジョンの必要性

< 芸術団体の活動の方向性と支援・評価 >

芸術団体 = 多機能、高機能の芸術団体 = institution 装置・制度・拠点

継続的に活動を支援することが必要 = 重点支援

事業計画には、公演事業だけでなく多様な事業が含まれる

団体の自律性、経営力の強化を支援 柔軟性をもたせる

安定性・確実性と、新人登用や新作などのチャレンジをバランスよく組み合わせる

総合的な評価を支援の事前と事後に行う

Cf. オーケストラ、劇場

一定の志向性の作品の創造に特化している団体

卓越性+普及（公演規模の拡大、公演地の拡大、公演対象の広がり）を目指す

Cf.

ある特定の作家・演出家の作品を公演していく団体

児童青少年を対象とする作品を専門的に公演している団体

経営力の強化

事業単位の支援 ただし中長期的視点を加味

実験性に富む活動、新しい公演への挑戦～特に市場が形成されていない分野、地域で

事業単位の支援

チャレンジのチャンスを与える（失敗もあり）

全体のバランスの中で多様性を確保

草創期、成長期の団体や、公演地域を広げようとしている団体への支援は財政支援のみでは不十分

コンサルティングや、マッチングが必要

創造的産業育成のための投資という考え方の場合のリターンの捉え方

1) 団体が中長期的にどう成長するか、実際に公演規模の拡大等が図れるのか

2) 芸術活動がもたらす外部性をどう把握するのか = 芸術団体単独では把握しきれない

政策評価のためにも広範な基礎調査を国や自治体が継続的に行う必要がある